第２次福岡市立高等学校活性化検討委員会（第２次会議）
第４回会議

日時：平成２２年３月２４日（水）１８：００～
場所：福岡市役所１５階１５０３会議室

１　開会

２　議題
（１）福岡女子高校の活性化について
　①　事務局説明
　②　質疑、意見交換
　　視点３　女子教育の推進について
　　視点４　家庭科について
　　視点５　特色ある取組みについて

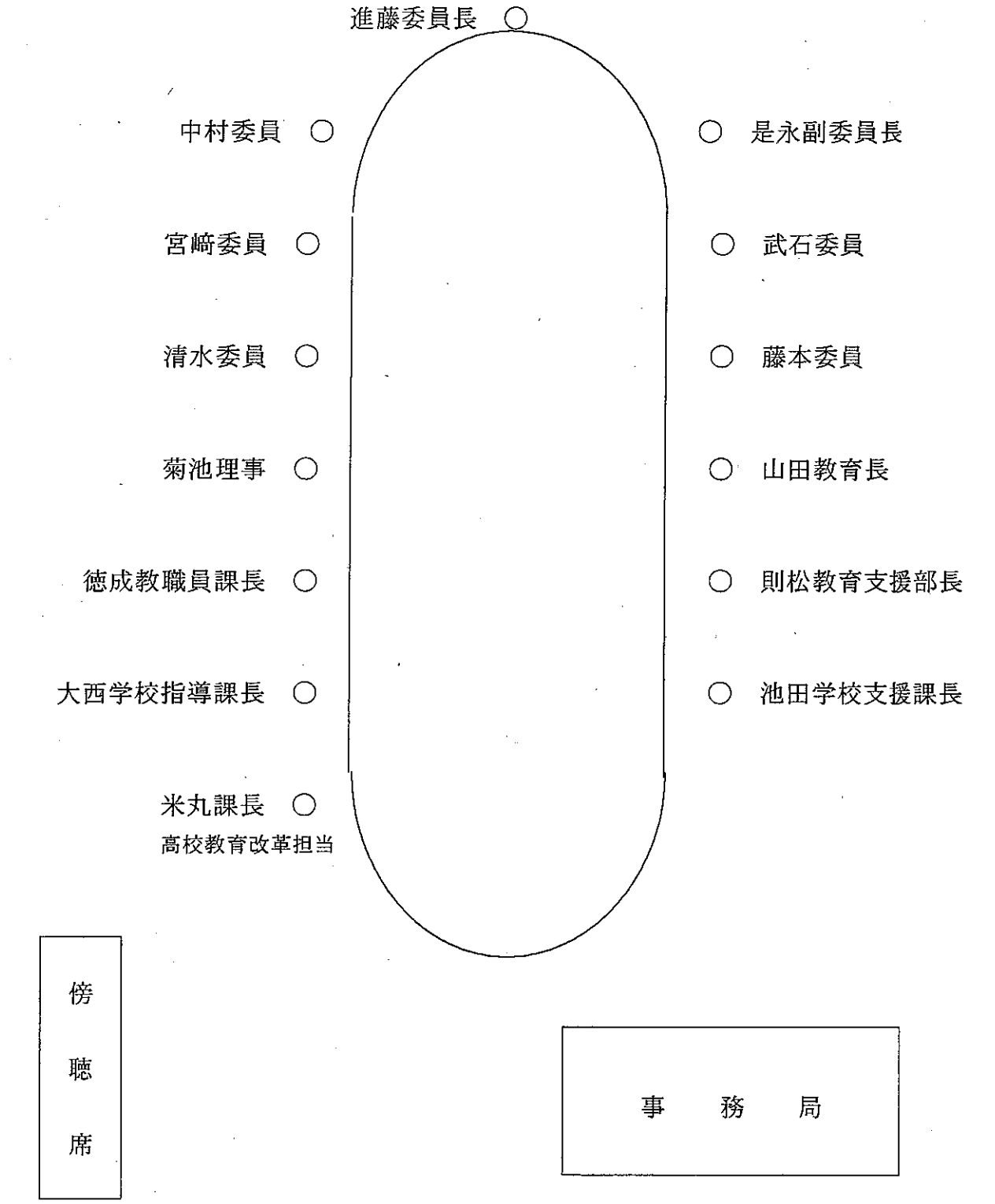
（２）福岡西陵高校の活性化について
　①　事務局説明
　②　質疑、意見交換
　　視点１　普通科のコースについて
　　視点２　特色ある取組みについて

３　その他

４　閉会

＊　今後の予定
第５回会議（４月を予定）、第６回会議（５月を予定）
・福岡市立高校全体の活性化について
　博多工業高校の学科・コース編成
　部活動の活性化
　外部評価　　などを予定
・高校に係る教育課題について
　特別支援教育の在り方
　帰国子女等の受け入れ
　中高一貫教育　　などを予定

第２次福岡市立高等学校活性化検討委員会第２次会議（第４回会議）　座席表



福岡女子高校の活性化の論点について（追加）

福岡女子高校は，第２次福岡市立高等学校活性化検討委員会の提言（最終報告平成１９年３月）を受け，学校現場での主体的な改革が着実に進められ，生徒指導面等において成果が出てきたところである。更に，多様な進路希望を持つ生徒の進路実現や社会の変化に対応した教育を推進するため，中学生，保護者や社会のニーズに即した学科改編等が求められている。

また，最終報告書において両論併記された共学化の是非についても，方向性を示す必要がある。

このような中，市民から必要とされる魅力ある福岡女子高校を目指すには，どのような方策をとるべきか。

○改革の方向性

①女子教育を推進する。

②学科改編等により活性化を図る。

・普通科は，コースを導入する。

・家庭科は，学科改編等も含め，柔軟な選択が可能となるようなシステムを構築する。

○検討の視点

１．福岡市内唯一の公立女子高校として女子教育を推進し，「女子のみ」の教育をメリットとして打ち出していきたい。そこで，女子校として活性化を図るにはどうすべきか，共学化の必要性も含めてご意見を伺いたい。

・これまで築いてきた女子校としての伝統，教育成果を活かす。

・生涯にわたって主体的に生きる女性を育てるとともに，社会で活躍できるリーダーの資質を養成する。

・公立女子校として，中学生，保護者のニーズに対応する。

例：女子教育を学校の特色（魅力）にするための手立て
　　共学化の必要性

２．普通科については，国際教養科を普通科のコースとして再編するとともに，特進コース（仮称）を導入し，多様な進路希望にも対応できる教育課程を実現したい。これについてご意見を伺いたい。

例：国際教養科の普通科コースへの再編
　　特進コースの設置（コース名や課題等も含めて）
　　その他のコースの設置
　　魅力ある普通科を実現するための手立て

3．今回の会議では，女子校として活性化を図ることを検討しているが，将来的には少子化傾向の中で，市立高校全体として，学校規模の適正化を検討する際に，共学化も視野に入れて統合等を検討する必要が出てくる。また，現状において，共学校は選択肢として存在するので，男子生徒の受入が求められているわけではないが，家庭科については男子生徒にも開く必要はあるのではないかという意見もある。そこで共学の必要性について，再度ご意見を伺いたい。

例：公立高校における女子教育の推進は，広く肯定的に捉えられるか。
中・長期的展望を見据えた場合に女子校の存続という方向性は妥当か。
共学化を行った場合の考えられる成果と課題
（校地面積，施設設備，教員の人的配置，教科指導，生徒指導等，部活動等）

4．家庭科については４学科を統合し，コース制を導入するとともに生徒の進路希望等に対応した教育課程を実現したい。これについてご意見を伺いたい。

・１年次に家庭科全般の共通科目の学習とコース選択に関する進路ガイダンスにより，生徒各自の能力・適正等への理解を深めさせ，主体的に選択を行わせることができる。
・コースの定数を柔軟に設定することで，社会情勢の変化やニーズに対応できる。
・高校卒業後の専門を活かした就職は少なく，７割以上の生徒が進学している実態がある。
・生活関連産業で活躍するために必要な知識や技術を習得することで，家庭生活や社会生活の充実向上も目指せ，将来に渡って生きて働く力を育成できる。

例：参考例（別紙）に対する意見
魅力ある家庭科を実現するための手立て
家庭科教育に求められるもの

5．その他，魅力ある福岡女子高校を目指すため，どのような特色や取組が必要か，ご意見を伺いたい。

例：地域や企業，大学等との連携
生徒作品の販売等，地域貢献活動とＰＲ活動
ものづくり教室等の実施と充実
就業体験（インターンシップ）やキャリア教育の充実

福岡西陵高校の活性化の論点について（追加）

高校進学率の上昇・生徒数増により，県との協議の結果，昭和５０年に第５学区（現４学区）に県立高校，第７学区（現６学区）に福岡西陵高校（全日制・普通科）が新設された。平成１７年度に学校規模適正化を図り，各学年８クラス（３２０名）となっている。福岡地区の中堅校として，一定の評価を得ているが，大学進学実績の向上や生徒指導の充実をはじめ，知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指し，生徒の豊かな人間性や社会性を育むための取り組みなど，中学生や保護者のニーズに即した学校活性化が求められている。

このような中，市民から必要とされる魅力ある福岡西陵高校を目指すには，どのような方策をとるべきか。

○改革の方向性

①大学進学等，生徒の進路希望の実現に向け，進学指導に重点を置いた教育を推進する。
②教育課程の見直しや進路指導体制の支援及び充実について，検討する。
③生徒に目標を抱かせるとともに意欲向上につなげるキャリア教育の推進を図る。

◆全国模試から見た課題

平成１９年度卒業者　全国偏差値推移

- １年次は学力の輪切りによって入学している。（傾向は例年大きく変わらない。）
- 私立Ｅ高は２年１１月から上昇（特進クラス，国公立型受験は１５０名程度）
- 福翔高校は１年１月以降，国公立型受験は６０名程度
- 福岡西陵は３年次以降，国公立型受験は５０名程度（平均）
- 入学時から経年的に学力偏差値は低下傾向を示す。（県立高校も同傾向）
  → （下位層が受験しなくなるから）

平成２０年度卒業者　全国偏差値推移

- 福翔高校は２年次より上昇（国公立クラス）
  → 早期の目標設定（セカンドステージ），国公立型受験は６０名程度
- 私立Ｅ高は２年１１月から上昇（特進クラス，国公立型受験は１６０名程度）
- 福岡西陵は３年次以降，国公立型受験は６０名程度（平均）

平成２０年度卒業者　進学実績（主な国公立・私立大学）

- 県立の同程度校に比して，進路実績が芳しくない。
- 福岡西陵は国公立・私立大学とも県外受験・合格者が少ない。
- 福岡西陵・福翔は最終的な国公立受験者が少ない。
  （西陵：２０名程度　福翔：５０名程度）
- 県外難関私立大学受験・合格者が少ない。

○　入学時の進路希望（国公立大進学１４０名程度）を維持する指導
○　難関大学にチャレンジする意欲の喚起
○　目標の早期設定
○　進路希望に応じた（特化した）教育課程の編成
○　一貫した進路指導体制の確立
○　教員の指導力向上に向けた授業研究や研修の充実，教育委員会の支援

○検討の視点

1　入学時の進路希望や目標を維持させるとともに意欲的に学習活動に取り組ませ，生徒の進路希望を実現させるため，普通科の在り方はどうあるべきか，また，中学生や保護者，中学校にとってどのような普通科高校が望ましいか，ご意見を伺いたい。

例：1「特進コース」等の設置

・国公立大学，難関私大受検に対応する教育課程の編成

・少人数指導による教科指導の強化

・柔軟な選択科目設定とガイダンス機能の充実による進路選択

・「習熟度別授業」の見直し，改善

2「進学指導体制」の充実

・授業研究や校内研修の充実

・教育委員会主催の「指導力向上」研修の充実

3「将来に目標を持ち，意欲的に学習活動に取り組むとともに，豊かな人間性や社会性を育む方策」

「キャリア教育」の推進

・高大連携による進路意識の高揚

・キャリアガイダンス，進路講演会などの質・量の拡充

「ボランティア活動」の推進

「規範意識を育む生徒指導」の充実

「学校行事」「部活動」等特別活動を通した主体性の養成

2　その他，魅力ある普通高校を目指すため，どのような特色や取組が必要か，ご意見を伺いたい。

例：・特別支援学校との交流の充実

・地域の小・中学校や大学等との連携

・地域貢献活動とＰＲ活動

・中高一貫教育

・「専門学科」の設置